

●目 次

ごあいさつ	1
設立の趣意・経過	2
財団の歩み(主要イベント)	3
研究助成、国際交流援助等の事業の実績(各年度)	4
当財団の活動状況	5
役員・評議員	13

表紙

ヒトゲノム国際計画において、1999年末に世界で初めて解読完了された22番染色体で、3種類のデータを重ね合わせたもの。

上半分：左から染色体の模式図、GC含量の分布、約3400万塩基の配列に存在する545個の遺伝子と125個の偽遺伝子などの分布を示すバーコード。

下半分：約400万塩基の特定領域に存在する遺伝子の詳細マップ(黒い背景には129個の免疫グロブリン λ 遺伝子のクラスターなどを含む)。

中央の青い円形はリンパ球、その中のカラフルな複数のスポットは5色蛍光FISH法で同定した特定遺伝子群を示す。

慶應義塾大学先導研・GenomeSuperPowerセンター 故 清水信義先生提供



ごあいさつ

公益財団法人 ライフサイエンス振興財団
理事長 林 幸秀

財団法人ライフサイエンス振興財団は、ライフサイエンス(生命科学)に係わる科学技術の振興に資するよう昭和58年12月に設立され、平成23年9月1日に、新公益法人制度の下、従来の事業内容を継承・実施する公益財団法人へと移行し、平成30年度に財団設立35周年を迎えました。

これまでの間に、ライフサイエンス分野の権威者の方々のご協力のもと、「脳神経疾患の診断と治療」、「生体と磁場」、「(健康な高齢期を迎えるための)健康科学」等の特定課題に重点を置きつつ、その他の一般課題とあわせて財団設立以来435課題、総額5億7千万円にのぼる研究助成を行ってきました。

また、ライフサイエンスに関する国際学会あるいはシンポジウムの開催援助(123件、4千2百万円)を行うとともに、海外における国際学会への参加等に必要な渡航費の助成(203人、5千5百万円)も実施してきました。その他、関連する普及啓発や動向調査も行ってきました。

少子高齢社会に突入したわが国、また人口増大、食糧問題を抱えた国際社会において、ライフサイエンスの発展が大いに期待される今日、当財団の活動の社会的意義は益々大きなものとなっております。

このような状況のもとに、今後、当財団設立の本旨にのっとり、また、公益法人制度の趣旨に鑑み、さらに、これまでの実績を踏まえ、一層の事業の充実をめざしてまいりたいと考えております。

令和元年7月

設立の趣意・経過

わが国における高度な産業経済の進歩は、世界における経済大国としての繁栄をもたらしました。今や先進国の一員として、世界人類の普遍的な利益のために、応分の貢献と責務が求められつつあります。しかも、わが国の場合、世界に例を見ない速さで到来している、高齢化社会という社会構造の変化があります。

このような情勢のなかで人々が真に求めているものは、最も基本的な人間の生命と安全に関する科学技術の進歩です。科学が科学のためにあるのではなく、人間の生命と、人間らしい生活のためにあるものでなければなりません。ここにライフサイエンスの進歩のため、人々の英知を結集して取り組むのは、現代科学の課題になっています。

そこでライフサイエンスの振興を目的とした財団の設立が構想されました。昭和58年夏頃から具体的な準備に入り、同年12月21日に民法第34条の規定に基づき 財団法人ライフサイエンス振興財団として内閣総理大臣より設立の許可を受けました。爾来、財団としてはライフサイエンスに関する研究開発の助成、普及啓発、国際交流の助成等の各事業を積極的に支援することになりました。

昭和58年12月の財団設立以来27年余を経た平成23年8月29日に、新公益法人制度による公益財団法人ライフサイエンス振興財団への移行認定を内閣府から受け、平成23年9月1日より新公益法人として業務を着実に推進しております。

財団の歩み（主要イベント）

昭和58年(1983) 12月21日	内閣総理大臣から公益法人として設立の許可書が交付された。 設立時基本財産1億3千万円
昭和58年(1983) 年度末	基本財産4億円
昭和59年(1984)	研究助成の特定課題を①老化の成因、②ニューロトランスミッター、及び③生体と磁気、と設定
昭和59年(1984) 年度末	基本財産7億7千万円
昭和60年(1985) 11月21日	主たる事務所を東京都千代田区麹町五丁目から同区隼町に移転
昭和62年(1987)	年報1（昭和61年版）発行
昭和62年(1987)	研究助成の特定課題を①神経の発生と老化、及び②生体と磁場、に変更
平成2年(1990)	研究助成の特定課題を①脳の老化、及び②生体と磁場、に変更
平成2年(1990) 年度末	基本財産8億2千万円
平成6年(1994)	年報8（10周年記念号）発行
平成16年(2004)	年報18（20周年記念号）発行
平成20年(2008)	研究助成の特定課題を①脳神経疾患の診断と治療、及び②生体と磁場、に変更
平成21年(2009) 3月4日	25周年記念シンポジウム
平成21年(2009) 3月23日	主たる事務所を千代田区隼町から同区麹町二丁目に移転
平成23年(2011) 9月1日	公益財団法人へ移行、新法人の基本財産は3億円
平成24年(2012)	研究助成の特定課題を①脳神経疾患の診断と治療、及び②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)、に変更
平成25年(2013)	設立30周年記念事業(特別研究助成、アンケート調査等)

研究助成、国際交流援助等の事業の実績（各年度）

金額単位（千円）

年 度		研 究 助 成		国 際 交 流				普 及 啓 発 等		年 度 別 合 計
				国際会議開催		渡 航				
西 暦	和 暦	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	金 額
1983	昭和58年	1	3,800	0	0	1	1,200	1	5,000	10,000
1984	59年	12	38,700	2	3,500	4	4,000	2	2,810	49,010
1985	60年	13	28,500	0	0	5	2,450	4	5,922	36,872
1986	61年	11	21,000	3	3,000	4	2,000	0	0	26,000
1987	62年	14	21,000	0	0	4	3,600	2	800	25,400
1988	63年	13	20,000	4	2,100	6	2,890	2	1,000	25,990
1989	平成元年	14	22,000	4	2,000	2	700	4	1,759	26,459
1990	2年	13	21,000	2	900	8	2,380	2	700	24,980
1991	3年	17	22,000	4	1,600	6	2,050	1	200	25,850
1992	4年	15	21,000	5	1,950	9	2,800	2	700	26,450
1993	5年	15	20,000	5	1,500	9	3,050	1	200	24,750
1994	6年	10	12,000	3	850	4	950	1	200	14,000
1995	7年	8	11,700	3	1,050	2	650	1	200	13,600
1996	8年	9	11,800	1	300	2	500	1	200	12,800
1997	9年	12	12,500	4	1,200	1	200	1	200	14,100
1998	10年	10	12,000	4	1,200	1	250	1	200	13,650
1999	11年	10	10,000	3	900	3	600	1	200	11,700
2000	12年	7	11,000	4	1,150	3	550	1	200	12,900
2001	13年	7	11,000	5	1,600	1	200	1	200	13,000
2002	14年	9	12,000	5	1,500	2	450	1	200	14,150
2003	15年	8	12,000	4	1,200	3	650	1	200	14,050
2004	16年	15	14,000	4	1,200	3	650	1	200	16,050
2005	17年	13	12,400	4	1,200	4	800	1	200	14,600
2006	18年	16	15,100	4	1,100	4	1,050	1	200	17,450
2007	19年	17	15,200	3	850	6	1,350	1	200	17,600
2008	20年	16	12,000	5	1,200	5	1,000	2	300	14,500
2009	21年	11	11,000	4	600	7	800	1	200	12,600
2010	22年	11	11,000	6	600	10	1,000	2	550	13,150
2011	23年	15	15,000	3	500	7	1,000	3	558	17,058
2012	24年	14	14,000	4	1,150	8	1,600	2	61	16,811
2013	25年	11	11,000	3	900	11	2,200	3	451	29,551
特別研究助成		3	15,000							
2014	26年	13	13,000	4	1,100	9	1,650	3	629	16,379
2015	27年	15	15,000	4	1,200	12	2,400	2	327	18,927
2016	28年	13	13,000	4	1,000	13	2,560	2	401	16,961
2017	29年	12	12,000	3	900	13	2,460	2	287	15,647
2018	30年	12	12,000	3	850	11	2,149	1	50	15,049
合 計		435	565,700	123	41,850	203	54,789	58	25,705	688,044

1. 研究開発の助成

平成24年度(2012年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
小野賢二郎	金沢大学附属病院神経内科	フェノール化合物に焦点をあてたレビー小体病の予防・治療薬の開発
吉富 徹	筑波大学大学院数理物質系物質工学域	レドックスポリマードラッグによる脳神経疾患治療法の開発
今居 讓	順天堂大学大学院神経変性疾患病態治療探索講座	若年性パーキンソン病原因遺伝子産物によるミトコンドリアの制御機構
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
清水 重臣	東京医科歯科大学難治疾患研究所	オートファジー機構を応用したスマート・エイジング対策法の開発
綾部 誠也	東京都健康長寿医療センター研究所老化制御研究チーム	健康長寿を実現するために最適な高齢者の日常身体活動の概日リズムの解明
③一般課題		
久原 篤	甲南大学理工学部生物学科	磁気に対する学習行動と耐性の分子遺伝学的解析
津久井宏行	東京女子医科大学心臓血管外科	僧帽弁逆流評価機能付きリングサイザー(EVALuator of MITRAL valve: EVAMITRA)の研究・開発
若杉 桂輔	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系	蛋白質工学的手法によるヒト・トリプトファンtRNA合成酵素の血管新生抑制機構の解明
深田 俊幸	理化学研究所免疫アレルギー科学総合研究センターサイトカイン制御研究グループ	新規エーラス・ダンロス症候群の発症機序の解明ー亜鉛イオンが関わる病気の理解と治療を目指してー
河村 和弘	聖マリアンナ医科大学産婦人科	多嚢胞性卵巣症候群患者に対するアクチン重合化剤を用いた卵胞発育誘導による不妊治療法の開発
殿山 泰弘	慶應義塾大学先端研・ゲノムスーパーパワー(GSP)センター	ヒト脳疾患のモデルとなりうるノックアウトメダカの作製と性状解析
鈴木 崇之	東京工業大学大学院生命理工学研究科	脳内の中枢シナプス結合と可塑性をコントロールする決定因子の解明
吉岡 和晃	金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生理学分野	血管形成・恒常性維持におけるクラスII型PI3キナーゼC2aの生理的役割
井垣 達吏	神戸大学大学院医学研究科遺伝学分野	細胞老化に着目したがん微小環境構築原理の遺伝学的解析

平成25年度(2013年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
那須 亮	京都府立医科大学大学院医学研究科腫瘍分子標的治療学講座	膠芽腫幹細胞に対するpleiotrophin-ALK軸を標的とした分化誘導療法の開発
今井 孝	群馬大学大学院医学系研究科国際寄生虫病学	脳マラリアの新しい評価法の確立

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
中川健太郎	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	脂肪化を伴う加齢性筋萎縮(sarcopenic obesity)の病態における転写コアクチベーター-TAZ、YAPの役割の解析、および、TAZ活性化剤とYAP阻害剤の治療有用性の検証
中川 誠司	産業技術総合研究所健康工学研究部門くらし情報工学研究グループ	非侵襲計測を用いた骨導超音波知覚の中樞神経機構の解明—重度難聴者のための新型補聴器の開発を目指して—
③一般課題		
亀山 俊樹	藤田保健衛生大学総合医科学研究科遺伝子発現機構学研究部門	新たに発見した癌細胞における『成熟mRNA再スプライシング現象』による広範なトランスクリプトーム異常に対する影響の探索
長船 健二	京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門	ヒトiPS細胞を用いた糖尿病に対する再生医療の前臨床研究
廣田 泰	東京大学医学部附属病院女性診療科・産科	生理的な細胞老化のクリアランスとその破綻による疾患発生のメカニズム
坂本 浩隆	岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻生物科学講座	逆・系統進化的アプローチによる「痒(かゆ)み」感覚・獲得過程の解明～脊椎動物における感覚受容メカニズムの起源を探る～
金城 雄樹	国立感染症研究所真菌部第三室	インフルエンザウイルス感染に続発する細菌性肺炎の制御方法の開発
新明 洋平	熊本大学大学院生命科学研究部神経分化学分野	脳回路形成機構とその破綻による脳機能障害の解明
稲田 明理	九州大学大学院医学研究院先端医療医学部門糖尿病遺伝子分野	糖尿病マウスにおける新しい膵臓β細胞の分化誘導と増殖の解明

設立30周年記念特別研究助成

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
西堀 正洋	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻	抗-HMGB1抗体医薬による脳血管疾患、脊髄損傷と癌性疼痛治療法開発
小野 眞弓	九州大学大学院薬学研究院創薬腫瘍科学講座	分子標的薬治療の“耐性がん”出現メカニズムの解明と耐性克服治療の創出研究
黒川 峰夫	東京大学大学院医学系研究科内科学専攻	転写因子を起点とする造血機構制御と造血器腫瘍発症機構の包摂的解析と治療法の開発

平成26年度(2014年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
武藤 達士	東北大学加齢医学研究所脳科学研究部門機能画像医学研究分野	Neuro-vascular unitに着目したくも膜下出血の遅発性脳虚血の病態解明と新規治療法の開発

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
上阪 直史	東京大学大学院医学系研究科神経生理学教室	シナプス発達・行動を指標とした自閉症原因遺伝子の同定
伊東 大介	慶應義塾大学医学部神経内科	C9orf72 6塩基反復配列異常伸長を伴う筋萎縮性側索硬化症の分子病態の解明と治療ターゲットの同定
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
田中 芳彦	福岡歯科大学機能生物化学講座感染生物学分野	健康な高齢期を迎えることを目指した歯周病の病態の解明と新しい治療法の開発
村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻	骨粗鬆症の病態マーカーと治療方法の開発
西川 恵三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター免疫細胞生物学	破骨細胞のエピジェネティック制御の解明と創薬応用ー高齢化社会を背景に急増する骨代謝疾患の画期的な予防・治療を目指してー
③一般課題		
谷内江 望	東京大学先端科学技術研究センター先進生命科学分野	タンパク質ネットワーク動態の高速同定技術の開発
崎谷 康佑	朝日生命成人病研究所附属医院消化器内科	オートファジーと小胞体ストレス応答による大腸癌の制御機構
安永晋一郎	広島大学原爆放射線医科学研究所放射線災害医療研究センター幹細胞機能学研究分野	組織幹細胞の老化制御の分子機構の解明
原 雄二	京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻生体認識化学分野	筋ジストロフィー治療法確立を目指した糖鎖認識ペプチドマテリアルの開発
丸山 達生	神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻	細胞内pHの違いを利用したガン細胞選択的新規抗ガンシステムの開発
明石 英雄	東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野	新規ヒト多能性維持機構の解明と、それを利用した神経誘導方法の開発
仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部解剖学教室	脳の認知機能を破綻から守るメカニズムの解明

平成27年度(2015年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
坂口 昌徳	筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構	新生ニューロンを用いた中枢神経再生治療のための基礎研究
河崎 洋志	金沢大学医学系	高等哺乳動物を用いた脳神経系の形成制御機構と形成異常疾患の病態解明
高橋 祐二	国立精神・神経医療研究センター病院神経内科	筋萎縮性側索硬化症の新規発症機構に立脚した分子指標の確立
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
中島 友紀	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学分野	健康寿命の促進を目指した咀嚼機能と学習・記憶行動のクロストークの解明
本橋ほづみ	東北大学加齢医学研究所遺伝子発現制御分野	アルツハイマー型認知症予防に向けた転写因子NRF2によるミクログリア活性制御の試み

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
鈴木 亮	名古屋市立大学大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻	免疫老化に伴うマスト細胞のアレルゲン親和性への感受性の変化と高齢者アレルギー
稲田 全規	東京農工大学大学院工学研究院 生命機能科学部門	骨と歯の健康維持を目指す骨粗鬆症と歯周病の発症機構解明と予防因子の応用
③一般課題		
佐々木拓哉	東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室	ストレス性精神疾患モデル動物における神経機能変動とその抑制機構の解明
川崎 善博	東京大学分子細胞生物学研究所 癌幹細胞制御研究分野	Wnt/c-Myc経路による新たな細胞周期制御機構と発がん
加藤 哲久	東京大学医科学研究所感染・免疫部門 ウイルス病態制御分野	単純ヘルペスウイルス増殖機構のゲノムワイドスクリーニング
武藤 達士	東北大学加齢医学研究所脳科学研究部門 機能画像医学研究分野	脳性麻痺後遺症に対するホースセラピーの治療効果に関する科学的検証
武田 弘資	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻	慢性炎症を防ぐミトコンドリア機能の解明
水関 健司	大阪市立大学大学院医学研究科生理学 第二教室	海馬台主細胞による投射先特異的情報ルーティング
安川 孝史	高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門 遺伝子機能解析学講座	Elongin Aの神経分化における標的遺伝子の同定ならびに伸長/ユビキチンリガーゼ(E3)両機能の転換機構の解明
松沢 厚	東北大学大学院薬学研究科衛生化学分野	ユビキチン化依存的キナーゼ分解制御の異常による免疫疾患・癌発症メカニズムの解明

平成28年度(2016年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
坪井 昭夫	奈良県立医科大学医学部脳神経システム医科学	新生ニューロンを用いた脳血管障害の新規治療法の開発
大木理恵子	国立がん研究センター研究所希少がん研究分野	脳下垂体腫瘍におけるがん抑制遺伝子PHLDA3の遺伝子の機能解析～脳下垂体腫瘍患者の個別化医療を目指して～
高杉 展正	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	Amyloid- β 結合性ペプチドTRAPを用いた多標的性のアルツハイマー病根本治療法の開発
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
定方 哲史	群馬大学テニユアトラック普及推進室	振戦の発症メカニズムの解明
中川 崇	富山大学大学院医学薬学研究部	NAD代謝による老化制御機構の解明
③一般課題		
畠山 鎮次	北海道大学大学院医学研究科医学専攻 生化学講座	ユビキチン関連タンパク質TRIM29による癌化制御の解明

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
小柴 琢己	九州大学大学院理学研究院生物科学部門	ミトコンドリアの動的特性と炎症代謝応答との相関解析
村山 正宜	理化学研究所脳科学総合研究センター行動神経生理学研究チーム	知覚記憶の強化 –マウスからヒトへの応用–
近藤 誠	大阪大学大学院医学系研究科神経細胞生物学講座	抗うつ薬抵抗性の難治性うつ病に対する新規治療戦略の確立と治療薬開発を目指した基盤研究
金城 雄樹	国立感染症研究所真菌部第三室	インフルエンザ感染後に重症化する肺炎球菌性肺炎の病態解明
渡 公佑	九州大学大学院薬学研究院創薬腫瘍科学講座	NDRG1のVEGF誘導がん血管新生への関与メカニズムの解明と新規がん治療の創薬研究
北西 卓磨	大阪市立大学大学院医学研究科神経生理学教室	機能未知の脳部位「前障」における大規模神経活動計測
高村 史記	近畿大学医学部免疫学教室	肺における組織滞在型メモリーCD8T細胞分化機構の解明

平成29年度(2017年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
細谷 俊彦	理化学研究所脳科学総合研究センター局所神経回路研究チーム	加齢・疾患に伴う大脳回路構造異常の精密解析
中山 高宏	杏林大学医学部細胞生理学	BBB透過型エピゲノム作用薬による発達障害の新しい治療法の開発
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
岩見 真吾	九州大学大学院理学研究院 生物科学部門	骨粗鬆症による骨折を予防する運動プログラムの開発
③一般課題		
高田 健介	北海道大学大学院獣医学研究院	免疫と脳の記憶をつなぐ分子基盤の解明
丸山 健太	大阪大学世界最先端研究機構免疫学フロンティア研究センター	侵害受容神経による敗血症死予防機構の解明と応用
山口 知也	熊本大学大学院先導機構(併任)大学院生命科学研究部	肺腺がんにおけるROR1によるエクソソーム制御機構の解明
鍋倉 宰	筑波大学生命領域学際研究センター	急性肝障害におけるDNAM-1の役割
松本 佳則	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	骨粗鬆症克服を目指した新たな骨芽細胞シグナルネットワークの解明
喜井 勲	理化学研究所科学技術ハブ推進本部	リン酸化酵素の活性制御による発達障害に対する創薬
宮西 正憲	理化学研究所多細胞システム形成研究センター	希少細胞集団をターゲットにした高感度ChIP-Seq解析法の開発
東田 裕一	九州大学稲盛フロンティア研究センター先端生命情報研究部門	ゲノムリプログラミングにおけるDNAメチル化修飾の役割解明

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
深田 俊幸	徳島文理大学薬学部病態分子薬理学研究室	亜鉛シグナルはどのように毛の発生と再生を制御しているのか？“亜鉛トランスポーターの制御に基づく発毛の創薬と再生医療研究”

平成30年度(2018年度)

研究代表者		研究課題名
氏名	所属	
①脳神経疾患の診断と治療		
竹内 雄一	名古屋市立大学大学院薬学研究科神経薬理学分野	オンデマンド経頭蓋脳深部刺激法を用いて難治性てんかんを制御する臨床技術の開発
藤原 和之	群馬大学大学院医学系研究科遺伝発達行動学分野	興奮-抑制バランス異常に着目した精神疾患における認知機能障害の治療法開発
奥野 浩行	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科生体機能制御学講座	大脳エンGRAM細胞に注目した記憶障害分子マーカーの網羅的探索
②健康科学(健康な高齢期を迎えるための)		
長谷川 豊	岩手医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科	褐色/ベージュ脂肪細胞の活性化機序解明と肥満・糖尿病の新規治療法の開発
③一般課題		
高橋 忠伸	静岡県立大学大学院薬学研究院生化学講座	ウイルス流行におけるシアリダーゼ酵素の機能解明
近藤 誠	大阪大学大学院医学系研究科神経細胞生物学講座	運動による抗うつ効果の分子機序に着目したうつ病の新規治療薬開発
白壁 恭子	立命館大学生命科学部生命医科学科	選択的スプライシングによるシェディング感受性制御がiPS細胞の分化多能性に及ぼす影響
五十嵐正樹	東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科	腸管のCellular senescenceを軸とした高齢者糖尿病の病態解明
谷口 浩二	慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学	消化器がん進展におけるがん免疫抑制機構の解明
竹内 純	東京医科歯科大学難治疾患研究所生体情報薬理学講座	心室筋-心房筋誘導法を用いたin vitro機能性心臓組織の構築
十島 二郎	東京理科大学基礎工学部生物工学科	Gタンパク質共役型受容体のエンドサイトーシス-リサイクリング機構の解析
荒岡 利和	京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門	ヒトiPS細胞由来腎オルガノイドを用いた慢性腎臓病に対する再生医療の開発

2.国際交流の援助

平成24年度(2012年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「国際シンポジウム「細胞内シグナルから見る生命現象と疾患」」の開催
- 「国際結核サーベイランス研究会議」の開催
- 「第6回食と健康に関する新潟国際シンポジウム」の開催
- 「第4回国際システム生物工学会」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者に、旅費等の援助を計 8 件行いました。

平成25年度(2013年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「第4回ミトコンドリア・ダイナミクス国際会議」の開催
- 「Igakuken International Symposium Marmoset Neuroscience -Anatomy, Development and Function」の開催
- 「第8回山口大学若手研究者セミナー「熱帯性環境生物資源開発と国際ネットワーク形成」」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者、または外国において調査・研究を行う研究者に、旅費等の援助を計 11 件行いました。

平成26年度(2014年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「第22回マクロファージ分子細胞生物学国際シンポジウム」の開催
- 「第2回D-アミノ酸国際学会」の開催
- 「第12回シトクロムP450生物多様性とバイオテクノロジー国際シンポジウム」の開催
- 「第11回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者、または外国において調査・研究を行う研究者に、旅費等の援助を計 9 件行いました。

平成27年度(2015年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「第8回国際被嚢類学会」の開催
- 「脳の構造と機能の創出原理：細胞間相互作用から個体間相互作用・環境ストレスまで」の開催
- 「サテライトシンポジウム(第40回日本微小循環学会主催)」の開催
- 「第11回若手研究者セミナー」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者、または外国において調査・研究を行う研究者に、旅費等の援助を計 12 件行いました。

平成28年度(2016年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「RNaseH 2016」の開催
- 「第13回国際細胞共生学会議」の開催
- 「第8回グローバルウイルスネットワーク会議」の開催
- 「7th Kyoto T Cell Conference International Symposium」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者、または外国において調査・研究を行う研究者に、旅費等の援助を計 13 件行いました。

平成29年度(2017年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「第14回国際バイオネラリゼーションシンポジウム」の開催
- 「リアルタイム機能的イメージングとニューロフィードバック2017」の開催
- 「2nd International Workshop on Plasma Agriculture (IWOPA-2)」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者、または外国において調査・研究を行う研究者に、旅費等の援助を計13件行いました。

平成30年度(2018年度)

国内で開催される以下の国際会議の援助を行いました。

- 「第1回若手ミトコンドリア国際会議」の開催
- 「コールドスプリングハーバー神経科学国際会議」の開催
- 「第7回国際セレン会議」の開催

その他、海外で開催される国際会議、シンポジウムで研究成果を発表する研究者に旅費等の援助を計11件行いました。

研究開発助成金の目録贈呈式の実施

平成30年度の研究開発課題助成について、受賞者を招いて役員及び評議員の出席のもと、助成金の目録贈呈式、交流会を行いました。



平成30年度研究開発助成受賞者と永井選考委員長、林財団理事長との記念写真

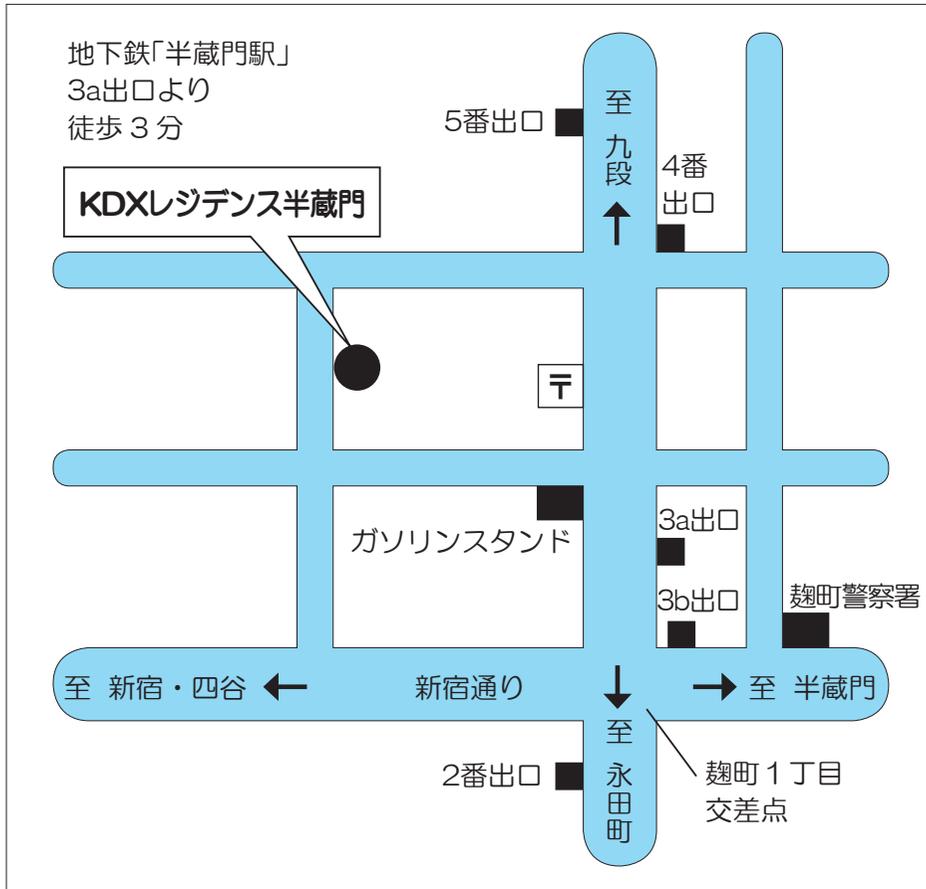
役員

理事長	林 幸秀	元文部科学省文部科学審議官
常務理事	塚本 勝	
理事	漆原 秀子	筑波大学名誉教授
	小川 智也	理化学研究所名誉研究員
	小澤 俊彦	日本薬科大学客員教授
	齋藤加代子	東京女子医科大学病院遺伝子医療センター ゲノム診療科特任教授
監事	尾尻 哲洋	辻・本郷税理士法人 特別顧問
	堀越 董	堀越・飯塚法律事務所 弁護士

評議員

	板橋 明	埼玉県骨疾患研究センター所長
	上原誉志夫	共立女子大学家政学部臨床栄養学前教授
	柴田 武彦	理化学研究所名誉研究員
	高橋 雅江	日本女子大学名誉教授
	永野 博	科学技術振興機構研究開発戦略センター 特任フェロー
	別所 正美	埼玉医科大学学長
	蓑島 伸生	浜松医科大学副学長

(五十音順)



公益財団法人

ライフサイエンス振興財団

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-12-1

KDXレジデンス半蔵門702号室

電話 (03)3265-2641

ファックス (03)3265-2645

URL : <http://www.lifesci-found.com>

Eメールアドレス japan@lifesci-found.com